

2021年度

講義概要

[精神保健福祉学科]

教育課程表

教育・社会福祉専門課程

精神保健福祉学科（昼間部）									
区分	授業科目		総授業時間	単位数	必修・選択の別	1年			
	科目	授業形態				前期	週コマ数	後期	週コマ数
共通科目	人体の構造と機能及び疾病	講義	30	2	必修	30	1		
	心理学理論と心理的支援	講義	30	2	必修	30	1		
	社会理論と社会システム	講義	30	2	必修			30	1
	現代社会と福祉	講義	60	4	必修	30	1	30	1
	地域福祉の理論と方法	講義	60	4	必修	30	1	30	1
	社会保障	講義	60	4	必修	30	1	30	1
	低所得者に対する支援と生活保護制度	講義	30	2	必修	30	1		
	福祉行財政と福祉計画	講義	30	2	必修			30	1
	保健医療サービス	講義	30	2	必修			30	1
	権利擁護と成年後見制度	講義	30	2	必修			30	1
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	講義	30	2	必修	30	1		
専門科目	精神疾患とその治療	講義	60	4	必修	30	1	30	1
	精神保健の課題と支援	講義	60	4	必修	30	1	30	1
	精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）	講義	30	2	必修	30	1		
	精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	講義	30	2	必修			30	1
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開	講義	120	8	必修	60	2	60	2
	精神保健福祉に関する制度とサービス	講義	60	4	必修	30	1	30	1
	精神障害者の生活支援システム	講義	30	2	必須	30	1		
実習演習科目	精神保健福祉援助演習（基礎）	演習	30	2	必須	30	1		
	精神保健福祉援助演習（専門）	演習	60	4	必修			60	2
	精神保健福祉援助実習指導	演習	90	6	必須	60	2	30	1
	精神保健福祉援助実習	実習	210	7	必修			210	7
合 計			1200	73		510	17	690	23

授 業 概 要			
授業のタイトル(科目名) 人体の構造と機能及び疾病	授業の種類		授業担当者
	講義		伊 藤 知 美
実務経験の有無		有	
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30時間	前 期	必 修
[授業の目的・ねらい] 精神保健福祉士にとって重要な医療職種との連携により実のある多職種協働を目指すため、医学に関する基本的知識を身につける。 [授業全体の内容の概要] 心身の構造と機能、頻度の高い疾患や障害について、リハビリテーション、国債機能分類、健康のとりえ方について、等。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] 医学一般の基礎の理解と臨床への活用の導入。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
コマ数	テーマ・内容 等		
1	人の成長・発達(1) 身体・精神の成長・発達		
2	人の成長・発達(2) 老化		
3	心身機能と身体構造の概要(1) 人体部位の名称		
4	心身機能と身体構造の概要(2) 各器官等の構造と機能①		
5	心身機能と身体構造の概要(3) 各器官等の構造と機能②		
6	疾病の概要(1) 生活習慣病、悪性腫瘍、他		
7	疾病の概要(2) 循環器、消化器、呼吸器疾患、他		
8	疾病の概要(3) 神経・精神疾患、泌尿器疾患、他		
9	障害の概要(1) 感覚器の障害		
10	障害の概要(2) 肢体不自由、内部障害、他		
11	障害の概要(3) 発達障害、認知症、他		
12	リハビリテーションの概要		
13	ICFの基本的考え方と概要		
14	健康のとりえ方		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] 最新・社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座1 医学概論 (中央法規出版)		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 定期試験	

授 業 概 要			
授業のタイトル(科目名) 心理学理論と心理的支援	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	森 明 美	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30時間	前 期	必 修
[授業の目的・ねらい] ①心理学的理論による人の理解とその技法の基礎、②人の成長・発達と心理との関係、③日常生活と心の健康との関係、④心理的支援の方法と実際、について概要を理解し、対人援助場面で利用できるようにする。 [授業全体の内容の概要] 授業を通して、自分自身を含め人間の心理的側面を理解できるように、より具体的に学習していく。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] 人を支援するために必要不可欠な心理学の知識を習得し、現場で生かせるようにする。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
コマ数	テーマ・内容 等		
1	心理学の歴史と対象		
2	生物学的基盤 感情		
3	動機づけ 欲求		
4	感覚・知覚		
5	学習・行動		
6	認知		
7	知能・パーソナリティ		
8	社会の中での心理(1)		
9	社会の中での心理(2)		
10	発達(1)		
11	発達(2)		
12	日常生活と心の健康		
13	心理アセスメント		
14	心理療法		
15	ソーシャルワークと心理学		
[使用テキスト・参考文献] 最新・社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座2 心理学と心理的支援 (中央法規出版)		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 確認小テスト、および定期試験	

授 業 概 要			
授業のタイトル(科目名) 社会理論と社会システム	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	馬 場 学	無
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30時間	後 期	必 修
[授業の目的・ねらい] ①社会理論による現代社会の捉え方、②家族社会・家族生活、③人と社会の関係、④社会問題、について概要を理解させるとともに、障がい者を援助するための知識の習得である。 [授業全体の内容の概要] 社会学という広範囲を表面的に理解するだけでなく、あらゆる角度からの視点に立って学習することにより、障がい者だけでなく、社会全体と人間という成員のあり方・構造が理解できるように組み立ててある。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] 障がい者を支援する援助者には必要不可欠な社会学。支援を必要としている者が社会の中でどのような位置に存在し、社会が何を求め、障がい者をどう扱いたいのかを客観的に見つめことができる精神保健福祉士として成長してもらいたい。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
コマ数	テーマ・内容 等		
1	現代社会の理解(1) 社会変動 ～近代の社会学史～		
2	現代社会の理解(2) 個人と集団(第一次集団・ゲマインシャフト・コミュニティ、など)		
3	現代社会の理解(3) 社会変動と社会意識(グローバル化・情報化・大衆化、など)		
4	現代社会の理解(4) 社会政策と社会福祉(政策・計画・指標・調査、など)		
5	生活の理解(1) 家族の構造的特質(制度・世帯・出生・離婚、など)		
6	生活の理解(2) 家族の機能的特質(役割・家族の個人化、など)		
7	生活の理解(3) 生活での変化①(人口・職業観・企業組織、など)		
8	生活の理解(4) 生活での変化②(ライフサイクル・QOL、など)		
9	生活の理解(5) ジェンダーの歴史と現在の状況		
10	生活の理解(6) ジェンダーでの諸問題(セクシャルハラスメント、等)		
11	人と社会の関係(1) 都市化と過疎化(シカゴ学派・日本における過疎問題、など)		
12	人と社会の関係(2) 地域社会の社会集団と組織(町内会・ネットワーキング、など)		
13	社会問題の理解(1) 発展にともなう社会的問題点①(環境問題・DV・差別、など)		
14	社会問題の理解(2) 発展にともなう社会的問題点②(ニート・医療逸脱行動・自殺、など)		
15	社会問題の理解(3) 社会問題の認識(社会運動・NPO法人、など)		
[使用テキスト・参考文献] 最新・社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座3 社会学と社会システム (中央法規出版)		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 確認小テスト、および定期試験	

授 業 概 要			
授業のタイトル(科目名) 現代社会と福祉		授業の種類	授業担当者
		講義	伊 藤 則 生
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
30回	60時間	通年(前期・後期)	必 修
[授業の目的・ねらい] 戦後70余年、今、最も重要な意味を持つ福祉国家の理念。国民だれもが安心して暮らすことができるよう目指してきたこれまでの福祉哲学や理念、政策等を学び、この基盤の上に、これからのあるべき姿を探し求める。			
[授業全体の内容の概要] だれにとっても暮らしやすい社会の仕組みを作り上げるための福祉政策・制度のあり方を求めて、社会福祉の史的展開、福祉の原理をめぐる理論・哲学、あるべき相談援助等、社会福祉の全体を見渡しながらかんいでいく。			
[授業終了時の達成課題(到達目標)] クライアントの自立を支援するために、社会福祉全体を見極め、自らの役割を果たすことのできるソーシャルワーカーを目指す。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数	テーマ・内容 等		
1	現代社会における福祉制度と福祉施策①(概念と理念)		
2	現代社会における福祉制度と福祉政策②(福祉政策の主体と対象)		
3	福祉の原理をめぐる理論と哲学(理論と哲学、「公共性」と「公共的相互性」)		
4	福祉政策の理論と実際(社会政策と福祉政策)		
5	福祉制度の発達過程①(前近代社会と福祉)		
6	福祉制度の発達過程②(近代社会と福祉)		
7	福祉制度の発達過程③(現代社会と福祉)		
8	福祉政策におけるニーズと資源(需要とニーズの概念、資源の概念)		
9	福祉政策の課題①(福祉政策と社会問題)		
10	福祉政策の課題②(福祉政策の現代的課題)		
11	福祉政策の課題③(福祉政策の課題と国際比較)		
12	福祉政策の構成要素①(福祉政策の論点)		
13	福祉政策の構成要素②(政策における政府の役割<その1>)		
14	福祉政策の構成要素③(福祉政策における政府の役割<その2>)		
15	福祉政策の構成要素④(福祉政策における市場の役割)		
16	福祉政策の構成要素⑤(福祉政策における国民の役割)		
17	福祉政策の構成要素⑥(福祉政策の手法と政策決定過程・評価)		
18	福祉政策の構成要素⑦(福祉の供給部門)		
19	福祉政策の構成要素⑧(福祉の供給過程)		
20	福祉政策の構成要素⑨(福祉サービスの利用と過程)		
21	福祉政策の関連領域①(福祉政策と教育政策)		
22	福祉政策の関連領域②(福祉政策と住宅政策)		
23	福祉政策の関連領域③(福祉政策と労働政策)		
24	福祉政策の関連領域④(人権擁護と福祉政策)		
25	相談援助活動と福祉政策①(相談援助の視点と方法)		
26	相談援助活動と福祉政策②(地域福祉への展開)		
27	福祉政策の国際比較(欧米諸国の福祉政策)		
28	福祉政策の国際比較(東アジア諸国の福祉政策)		
29	福祉政策の課題と展望①(現代社会の変化と福祉政策)		
30	福祉政策の課題と展望②(包摂的福祉政策への展開)		
[使用テキスト・参考文献] 最新・社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座4 社会福祉の原理と政策 (中央法規出版)		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 定期試験・課題レポートの提出	

授 業 概 要			
授業のタイトル(科目名) 地域福祉の理論と方法		授業の種類 講義	授業担当者 伊 藤 則 生
実務経験の有無 無			
授業の回数 30回	時間数 60時間	配当学年・時期 通年 (前期 ・ 後期)	必修・選択 必 修
[授業の目的・ねらい] 2000年の「社会福祉基礎構造改革」は、新しい世紀の社会福祉の姿を示すものとなった。その中で、福祉サービス利用者の地域での自立生活を支援する「地域福祉」は、今後の社会福祉のメインストリームとして位置づけられた。授業では、地域福祉とは何か、その具体的な活動や手法を実践例を通して学ぶ。 [授業全体の内容の概要] 先駆的に取り組まれてきた活動、地域福祉研究者の理論の整理、コミュニティソーシャルワークの考え方について学ぶ。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] コミュニティソーシャルワーカーとしての基盤習得[授業の目的・ねらい]			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数	テーマ・内容 等		
1	新しい社会福祉システムとしての地域福祉の発展過程		
2	行政と住民の協働による新しい福祉としての地域福祉		
3	新しい福祉サービスシステムとしての地域福祉		
4	地域コミュニティの考え方と地域福祉主体の形成		
5	地域福祉の日本的な考え方① 地域福祉理論の発展と広がり		
6	地域福祉の日本的な考え方② 地域自立生活支援と地域福祉の理念		
7	地域福祉の主体と福祉教育① 福祉教育の概念と内容		
8	地域福祉の主体と福祉教育② 地域福祉の推進と福祉教育		
9	行政組織と民間組織の役割と実際① 社会福祉における地方分権化と地域福祉計画		
10	行政組織と民間組織の役割と実際② 社会福祉協議会、NPO法人、民生委員		
11	コミュニティソーシャルワーク① コミュニティソーシャルワークの考え方		
12	コミュニティソーシャルワーク② コミュニティソーシャルワークの展開とシステム		
13	コミュニティソーシャルワーク③ 専門職と住民の関係		
14	住民の参加と方法① 地域福祉推進における住民参加の意義		
15	住民の参加と方法② 住民の代表制と参加方法		
16	ソーシャルサポートネットワーク① 考え方と位置		
17	ソーシャルサポートネットワーク② エコロジカルアプローチ		
18	ソーシャルサポートネットワーク③ コミュニティソーシャルワーク		
19	地域における社会資源① 社会資源の概要		
20	地域における社会資源② 社会資源の活用法とコーディネート		
21	地域における社会資源③ 福祉サービスの開発		
22	地域における福祉ニーズ① 地域におけるアウトリーチの意義		
23	地域における福祉ニーズ② 質的な福祉ニーズの把握方法と実際		
24	地域における福祉ニーズ③ 量的な福祉ニーズの把握方法と実際		
25	地域トータルケアシステムの構築と実際① 地域トータルケアシステムの必要性和考え方		
26	地域トータルケアシステムの構築と実際② 地域トータルケアシステムの展開方法		
27	地域における福祉サービスの評価方法と実際① 評価を必要とする背景		
28	地域における福祉サービスの評価方法と実際② 福祉サービスの評価方法と実際		
29	日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方① イギリス		
30	日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方② アメリカ		
[使用テキスト・参考文献] 最新・社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座6 地域福祉と包括的支援体制 (中央法規出版)		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 定期試験	

授 業 概 要			
授業のタイトル(科目名)		授業の種類	授業担当者
社会保障		講義	伊 藤 則 生
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
30回	60時間	通年(前期・後期)	必 修
[授業の目的・ねらい] 現代社会における少子高齢化の一層の進展にともない、喫緊の問題として社会保障制度のあり方が問われている。社会保障の概念、対象、およびその理念の歴史的背景を含め、現行の社会保障制度の体系と概要、公的保険制度と民間保険制度の役割分担、諸外国における社会保障制度の取り組み方等を研究し、山積する諸問題を的確に把握する基盤を学ぶ。 [授業全体の内容の概要] 後期高齢者の急増が確実な現代社会において、財源と費用のあり方が問われている。公的年金制度・医療保険制度を中心に社会保障の制度・政策を学び課題を探る。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] ソーシャルワーカーとして実践の場においては、制度・政策を熟知することは当然であり、さらに適切な社会資源を作り出す力を身につけることを目標とする。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数	テーマ・内容 等		
1	現代社会における社会保障制度の課題 ① (人口動態の変化、少子高齢化)		
2	現代社会における社会保障制度の課題 ② (労働環境の変化)		
3	社会保障の概念や対象およびその理念 ① (社会保障の概念と範囲)		
4	社会保障の概念や対象およびその理念 ② (社会保障の役割と意義)		
5	社会保障の概念や対象およびその理念 ③ (社会保障の理念)		
6	社会保障の概念や対象およびその理念 ④ (社会保障の対象)		
7	社会保障の概念や対象およびその理念 ⑤ (社会保障制度の発達)		
8	社会保障の財源と費用 ① (社会保障の財源)		
9	社会保障の財源と費用 ② (社会保障給付費)		
10	社会保障の財源と費用 ③ (国民負担率)		
11	社会保険と社会扶助の関係 ① (社会保険の概念と範囲)		
12	社会保険と社会扶助の関係 ② (社会扶助の概念と範囲)		
13	公的保険制度と民間保険制度の関係 (公的施策と民間保険の現状<その1>)		
14	公的保険制度と民間保険制度の関係 (公的施策と民間保険の現状<その2>)		
15	社会保障制度の概要 ① (年金保険制度の概要)		
16	社会保障制度の概要 ② (医療保険制度の概要)		
17	社会保障制度の概要 ③ (介護保険制度の概要)		
18	社会保障制度の概要 ④ (労災保険制度の概要)		
19	社会保障制度の概要 ⑤ (雇用保険制度の概要)		
20	社会保障制度の概要 ⑥ (社会福祉制度の概要)		
21	社会保障制度の概要 ⑦ (生活保護制度の概要)		
22	社会保障制度の概要 ⑧ (家庭手当制度の概要)		
23	年金保険制度の具体的内容 ① (国民年金)		
24	年金保険制度の具体的内容 ② (厚生年金)		
25	年金保険制度の具体的内容 ③ (各種共済組合の年金)		
26	医療保険制度の具体的内容 ① (国民健康保険)		
27	医療保険制度の具体的内容 ② (健康保険)		
28	医療保険制度の具体的内容 ③ (各種共済組合の医療保険)		
29	諸外国における社会保障制度の概要 (先進諸国における社会保障制度<その1>)		
30	諸外国における社会保障制度の概要 (先進諸国における社会保障制度<その2>)		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
最新・社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座7 社会保障 (中央法規出版)		(試験やレポートの評価基準など) 定期試験・課題レポートの提出	

授 業 概 要				
授業のタイトル(科目名)		授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
低所得者に対する支援と生活保護制度		講義	モンゼンノリオ 門前典男	有
授業回数	時間数	配当学年・時期		必須・選択
15回	30時間	前 期		必 須
[授業の目的・ねらい]	・我が国の生活保護制度を中心とした内外の公的扶助制度及び低所得者に対する周辺施策等について、教科書及び関係資料(自ら作成した教材など)をもとに国家試験への対策、実践的なソーシャルワークをできる知識を身につけるための学習を行う。			
[授業全体の 内容の概要]	・公的扶助の概念・歴史(外国を含む)、我が国の生活保護制度の基本的原理・原則や生活保護受給者、ホームレスの動向、低所得者対策及び関係諸機関の役割、最近の法制度(改正生活保護法、生活困窮者自立支援法など)等の動向等を理解してもらう。 なお、学生が授業内容をどの程度理解しているかを把握するため「定期試験」の他に、中間期間に「小テスト」を実施する。さらには、国家試験の過去問題を中心にした分析などを行い、国家試験合格対策についての授業を徹底的に行う。			
[授業終了時の 達成課題(達成目標)]	・生活保護制度の成り立ち、基本的な制度等の理解を深め、国家試験の全員合格を目指す。また、精神障がい者等に対して、生活保護及び周辺施策が円滑に利用・支援できる能力を養う。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法				
コマ数	テーマ・内容 等			
1	生活扶助の概念と範囲			
2	貧困・低所得者問題と社会的排除			
3	公的扶助制度の歴史と仕組み(外国と我が国)1			
4	公的扶助制度の歴史と仕組み(外国と我が国)2			
5	現生活保護制度の仕組 1			
6	現生活保護制度の仕組 2			
7	現生活保護制度の仕組 3			
8	改正生活保護法			
9	生活困窮者自立支援法 1			
10	生活困窮者自立支援法 2			
11	低所得者対策(他方他施策)の概要			
12	生活保護の運営実施体制と関係機関・団体(主に福祉事務所関係)			
13	生活保護の動向(ホームレスを含む)			
14	貧困・低所得者に対する相談援助活動			
15	その他及び総まとめ			
「使用テキスト・参考文献」 最新・社会福祉士養成講座4 貧困に対する支援 (中央法規出版) ○関係法令・資料(作成用 副教材) ○自己学習によるテスト問題等を含む			「単位認定の方法及び基準」 (試験やレポートの評価基準など) ・小テスト ・定期試験 ・その他 授業態度等	

授 業 概 要				
授業のタイトル(科目名)		授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
福祉行財政と福祉計画		講義	モン 門 ゼン 前 ノリ 典 オ 男	有
授業回数	時間数	配当学年・時期		必須・選択
15回	30時間	後 期		必 須
[授業の目的・ねらい]	・福祉行財政(民間の社会福祉事業の財源等を含む)の実施体制、地方分権の動向と理解、各種の福祉・医療計画関係の国、地方公共団体、民間機関の役割及び現状について法的根拠を踏まえて学習する。 さらに国家試験出題の過去問題を中心にした分析を行い合格対策についての学習を徹底的に行う。			
[授業全体の 内容の概要]	・福祉行財政の実施体制、各行政福祉施設の予算・決算、福祉行政と組織、法制度の仕組みなどの具体的な内容を学ぶ。特に各種福祉・医療計画などについては、最近の国等の施策・動向を含めて現状(計画期間・各計画との関連等)について学ぶ。 なお、学生が授業内容をどの程度理解しているかを把握するため「定期試験」以外に、中間で「小テスト」を実施する。さらには、国家試験の過去問題を中心にした分析などを行い、国家試験合格対策についての授業を徹底的に行う。			
[授業終了時の 達成課題(達成目標)]	・福祉行財政と福祉計画についての理解を深め、過去問題を中心に国家試験の分析を行い、合格対策についての学習を徹底的に行うとともに、精神保健福祉士としての実務に役立つ授業を行う。さらには、卒業後、即戦力として、福祉行財政と福祉計画の関わりを理解することで、現在の福祉への対応ができる能力を養う。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法				
コマ数	テーマ・内容 等			
1	社会福祉の定義の変遷等について (Ⅰ)			
2	社会福祉の定義の変遷等について (Ⅱ)			
3	社会福祉の法制度の展開、福祉計画の概要について			
4	福祉行政と組織と専門職の役割(行政の骨格、福祉行政の組織と役割(国、地方 自治体、専門諸機関、地方分権)及び社会福祉関係法の法制度等について (Ⅰ)			
5	福祉行政と組織と専門職の役割(行政の骨格、福祉行政の組織と役割(国、地方自治体、専門書機関、地方分権)及び社会福祉関係法の法制度等について (Ⅱ)			
6	福祉財政及び民間社会福祉事業の財源等について (Ⅰ)			
7	福祉財政及び民間社会福祉事業の財源等について (Ⅱ)			
8	福祉計画の目的と意義について			
9	福祉計画の理論と技法等について			
10	老人福祉計画・介護保険事業計画について			
11	障害者計画・障害福祉計画について			
12	次世代育成支援行動計画について			
13	地域福祉計画について、その他(子どもの貧困対策計画、自殺対策計画、健康増進法等)、最近の福祉行政計画などについて			
14	介護保険法などについて			
15	福祉計画の過程における技法・福祉計画の総括などについて			
「使用テキスト・参考文献」 最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座6 地域福祉と包括的支援体制 (中央法規出版) ○関係法令・資料(作成用 副教材) ○自己学習による復習問題等		「単位認定の方法及び基準」 (試験やレポートの評価基準など) ・小テスト ・定期試験 ・その他 授業態度等		

授 業 概 要			
授業のタイトル(科目名)		授業の種類	授業担当者
保健医療サービス		講義	富 田 晶 子
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30時間	後 期	必 修
[授業の目的・ねらい] 我が国の保健医療サービスの内容を理解し、社会(精神保健)福祉専門職の役割について考える。 [授業全体の内容の概要] ①医療法に基づく医療提供体制の流れを概観する。 ②医療保険制度、障害者総合支援法、介護保険制度等を通観する。 ③保健医療サービスの専門職、連携について理解する。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] 保健医療サービスの内容が理解でき、社会福祉専門職として、チームワークや多職種連携の大切さを認識できる。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
コマ数	テーマ・内容 等		
1	保健医療サービスとは何か		
2	医療法改正(第1次～第6次)の流れ、内容		
3	医療施設の機能・類型		
4	国民医療費の推移、構造		
5	医療ソーシャルワーカーの業務内容		
6	保健医療サービス専門職の役割		
7	復習、練習問題		
8	医療保険制度(健康保険のしくみ、高額療養費制度等)		
9	診療報酬制度、診療報酬における連携、社会福祉士・精神保健福祉士の評価		
10	介護保険のしくみと介護給付(サービス)		
11	公費負担医療、障害者総合支援法、精神通院医療		
12	保健医療専門職および地域の社会資源との連携		
13	地域連携クリティカルパスの事例		
14	地域のネットワーキング		
15	一年間の復習、練習問題		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
最新・社会福祉士養成講座5 保健医療と福祉 (中央法規出版)		(試験やレポートの評価基準など) 定期試験により評価	

授 業 概 要			
授業のタイトル(科目名) 権利擁護と成年後見制度	授業の種類		授業担当者
	講義		野 浪 実 穂
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30時間	後 期	必 修
[授業の目的・ねらい] 相談援助活動の土台となる法律について概観し、憲法の基本原理を理解する。特に精神保健福祉士の業務には欠かせない成年後見制度等を理解し、実際の権利擁護活動についても知識を深める。 [授業全体の内容の概要] 法律の基本的な知識を理解し、日本国憲法、民法、行政法といった援助活動に関連した法律内容を知る。また、実践で必要となる、成年後見制度、日常生活自立支援事業等の権利擁護活動の理念を理解し、利用方法や利用過程を学ぶ。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] 法の重要性、読み取り方を理解する。援助者として、相手の立場に立って考えることのできる鋭い人権感覚を身につけ、成年後見制度等の利用過程を知る。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
コマ数	テーマ・内容 等		
1	日本国憲法		
2	行政法①		
3	行政法②		
4	行政法③		
5	民法① 契約・不法行為		
6	クーリングオフ制度		
7	民法② 夫婦・親族・親子		
8	民法③ 養子・相続		
9	民法④ 遺言		
10	成年後見制度①		
11	成年後見制度②・任意後見制度		
12	日常生活自立支援事業		
13	成年後見制度利用支援事業		
14	権利擁護にかかわる組織・団体の役割と活動の実際		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] 最新・社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座9 権利擁護を支える法制度 (中央法規出版) その他 適宜資料を配布		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 定期試験	

授 業 概 要			
授業のタイトル(科目名)	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
障害者に対する支援と 障害者自立支援制度	講義	野 浪 実 穂	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30時間	前 期	必 修
[授業の目的・ねらい] 今日の社会福祉法制度において、障害をもつ人やその家族を理解するとともに、彼等を支援する機関と専門職が、どのような立場におかれているかを理解する。障害をもつ人の自立や社会参加を支援するための障害保健福祉施策の中核となる障害者総合支援法について知識を深める。 [授業全体の内容の概要] 障害をもつ人を取り巻く制度や支援における理念が、どのような歴史的経過を経て誕生し、今日に至るかを知り、障害者福祉制度の発展過程について理解する。 今日の障害者を取り巻く社会情勢や生活の実態と障害者総合支援法を中心としたその支援について理解を深める。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] 相談活動で必要となる様々な法律や制度を理解する。総合支援法における利用者中心の考え方、利用者の多様性や個別性の尊重、利用者の受容など、基本的な考え方を身につける。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
コマ数	テーマ・内容 等		
1	障害者の定義と特性 国際生活機能分類(ICF)		
2	障害者福祉の理念		
3	障害者の生活実態		
4	障害者総合支援法1 成立過程と概要		
5	障害者総合支援法2 支給決定プロセスと、サービスの類型		
6	障害者総合支援法3 組織及び団体の役割		
7	障害者総合支援法4 専門職の役割と業務		
8	障害者総合支援法5 相談支援事業所の役割と実際		
9	児童福祉法		
10	障害者基本法		
11	身体障害者福祉法 知的障害者福祉法		
12	障害者虐待防止法		
13	障害者差別解消法		
14	障害者雇用促進法		
15	全体のまとめ・模擬問題		
[使用テキスト・参考文献] 最新・社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座8 障害者福祉 (中央法規出版) その他 適宜資料を配布		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 定期試験	

授 業 概 要			
授業のタイトル(科目名) 精神疾患とその治療	授業の種類		実務経験の有無
	講義		有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
30回	60時間	通年（前期・後期）	必修
[授業の目的・ねらい] 精神医学の概要及び精神障害・治療法の概要について理解する。 [授業全体の内容の概要] 脳・神経の知識、代表的な精神障害とその診断法及び治療法について学習する。精神医療に関する理念・問題点や必要な思考方法について学習する [授業終了時の達成課題(到達目標)] 福祉、臨床の現場において、知識の活用や必要な検索が出来るようになること。国家試験で要請される程度の知識を十分に獲得すること			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数	テーマ・内容 等		
1	精神医学・医療の歴史と現状		
2	精神現象の生物学的基礎・こころの理解		
3	精神障害の概念、精神疾患の成因と分類		
4	精神症状と状態像Ⅰ 精神症状各論		
5	精神症状と状態像Ⅱ 状態像・症候群		
6	診断の手順と方法、心理的検査と身体的検査		
7	器質性精神障害 認知症 その1		
8	器質性精神障害 認知症 その2		
9	症状性精神障害・てんかん		
10	精神作用物質使用による精神及び行動の障害		
11	統合失調症 その1		
12	統合失調症 その2		
13	気分障害		
14	今までの復習と補足		
15	前期試験の解説		
16	不安性障害・強迫性障害		
17	ストレス関連障害		
18	解離性障害・身体化障害・心身症		
19	摂食障害		
20	睡眠障害		
21	パーソナリティ障害		
22	発達障害 その1		
23	発達障害 その2		
24	発達障害 その3		
25	発達障害 その4		
26	薬物療法		
27	精神療法		
28	精神保健福祉法		
29	後期テスト解説		
30	総復習		
[使用テキスト・参考文献] 最新・精神保健福祉士養成講座1 精神医学と精神医療 (中央法規出版)		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 定期試験	

授 業 概 要			
授業のタイトル(科目名) 精神保健の課題と支援		授業の種類	授業担当者
		講義	杉原 直樹
実務経験の有無		有	
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
30回	60時間	通年（前期・後期）	必修
[授業の目的・ねらい] 精神の健康についての基本的考え方と精神保健学の役割について理解する。 [授業全体の内容の概要] 現代社会における個人のライフサイクルや社会環境(学校、職場、世界等)における精神保健的諸課題と精神保健の実際および精神保健福祉士の役割等について学習する。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] 精神保健福祉の現状を知り、それらの関係者の連携方法を熟知し、支援のための知識を獲得する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数	テーマ・内容 等		
1	精神保健の概要①		
2	精神保健の概要②		
3	現代の精神保健分野の動向と基本的な考え方①		
4	現代の精神保健分野の動向と基本的な考え方②		
5	家族に関連する精神保健の課題と支援①		
6	家族に関連する精神保健の課題と支援②		
7	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ①		
8	精神保健の視点からみた学校教育の課題とアプローチ②		
9	精神保健の視点からみた勤労者の課題とアプローチ①		
10	精神保健の視点からみた勤労者の課題とアプローチ②		
11	精神保健の視点からみた勤労者の課題とアプローチ③		
12	精神の健康と関連する要因及び精神保健の概要まとめ		
13	精神保健の視点からみた家族・学校教育・勤労者の課題とアプローチまとめ①		
14	精神保健の視点からみた家族・学校教育・勤労者の課題とアプローチまとめ②		
15	前期まとめ(精神の健康と関連する要因及び精神保健の概要、家族、学校教育、勤労者の課題とアプローチ)		
16	精神保健の視点からみた現代社会の課題とアプローチ①		
17	精神保健の視点からみた現代社会の課題とアプローチ②		
18	精神保健に関する発生予防と対策／精神保健福祉士の役割①		
19	精神保健に関する発生予防と対策／精神保健福祉士の役割②		
20	精神保健に関する発生予防と対策／精神保健福祉士の役割③		
21	地域精神保健に関する偏見・差別等の課題①		
22	地域精神保健に関する偏見・差別等の課題②		
23	精神保健に関する専門職種と国、都道府県、市町村、団体等の役割および連携①		
24	精神保健に関する専門職種と国、都道府県、市町村、団体等の役割および連携②		
25	精神保健に関する専門職種と国、都道府県、市町村、団体等の役割および連携③		
26	諸外国の精神保健活動の現状および対策①		
27	諸外国の精神保健活動の現状および対策②		
28	精神保健に関する課題と対策、精神保健福祉士の役割のまとめ		
29	行政、団体等の役割と連携、諸外国の現状と対策まとめ		
30	後期まとめ(精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割、各機関の役割と連携)		
[使用テキスト・参考文献] 最新・精神保健福祉士養成講座2 現代の精神保健の課題と支援 (中央法規出版)		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 定期試験	

授 業 概 要			
授業のタイトル(科目名)		授業の種類	授業担当者
精神保健福祉相談援助の基盤(基礎)		講義	仲 野 文 伸
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30時間	前 期	必 修
[授業の目的・ねらい] 精神保健福祉士の役割(総合的包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発を含む。)と意義について理解する。 社会福祉士の役割と意義について理解する。 [授業全体の内容の概要] 精神保健福祉士の役割と意義について理解し、相談援助の基礎理論を学ぶ 相談援助の概念と範囲を理解し、社会福祉士の役割と意義、相談援助の理念を学ぶ。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] 精神保健福祉分野での精神保健福祉士の役割と相談援助活動について学び、その専門性を理解する			
コマ数	テーマ・内容 等		
1	社会福祉、相談援助活動の概要		
2	精神保健福祉の変遷		
3	精神保健福祉の政策動向		
4	社会福祉士、精神保健福祉士の誕生と経緯		
5	精神保健福祉士の位置づけと求められる専門性		
6	社会福祉士の位置づけと役割		
7	バイステックの7原則		
8	ソーシャルワークの定義		
9	ソーシャルワークの価値と理念		
10	価値と理念の具体的内容①		
11	価値と理念の具体的内容②		
12	ソーシャルワークの源流と形成過程①		
13	ソーシャルワークの源流と形成過程②		
14	日本におけるソーシャルワークの形成過程		
15	精神保健福祉分野におけるソーシャルワーク		
[使用テキスト] 新・精神保健福祉士養成講座 3 精神保健福祉相談援助の基盤(基礎・専門)第2版 (中央法規出版) [参考文献] 精神科ソーシャルワーカー実践記「昭和のあしあと」 (三恵社)		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 授業参加、取り組み、定期試験などでの総合評価	

授 業 概 要			
授業のタイトル(科目名)		授業の種類	授業担当者
精神保健福祉相談援助の基盤(専門)		講義	森 明 美
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30時間	後 期	必 修
[授業の目的・ねらい] 精神保健福祉士としての相談援助を学ぶとともに他職種の専門性・役割を理解する [授業全体の内容の概要] 精神保健福祉分野における相談援助を体系的に学ぶ [授業終了時の達成課題(到達目標)] 精神保健福祉士としての相談援助の技術を学び、多職種と連携をとれるようになること			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数	テーマ・内容 等		
1	相談援助の定義		
2	精神保健福祉士の専門性		
3	専門的相談援助活動		
4	精神保健福祉士の役割		
5	精神保健福祉分野における相談援助活動の目的と意義		
6	相談援助にかかわる専門職		
7	精神科医療機関における専門職①		
8	精神科医療機関における専門職②		
9	行政機関・障害者福祉サービス事業所における専門職		
10	権利擁護の概念と範囲		
11	権利擁護と精神保健福祉士の役割		
12	専門職倫理と倫理的ジレンマ		
13	精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助		
14	多職種連携とチームアプローチ		
15	まとめ 他職種連携における精神保健福祉士の役割		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)	
新・精神保健福祉士養成講座 3 精神保健福祉相談援助の基盤(基礎・専門)第2版 (中央法規出版)		定期試験、小テスト	

授 業 概 要			
授業のタイトル(科目名) 精神保健福祉の理論と 相談援助の展開	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	森明美・仲野文伸 他 講師	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
60回	120時間	通年 (前期 ・ 後期)	必 修
[授業の目的・ねらい] 精神医療の特性をふまえ、精神科リハビリテーションの知識と技術、精神障害者を対象とした相談援助技術を理解する。また、地域相談援助における基本的考え方について理解する。 [授業全体の内容の概要] 現場の精神保健福祉士の方を講師に招き、実際の精神保健福祉分野の精神保健福祉士の活動、そのために必要な知識についての講義を行う。また、グループワークや事例検討などを盛り込みながら学習していく。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] 精神障害者の歴史、現状を理解したうえで、精神保健福祉分野での支援方法、リハビリテーション技法などを習得できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数	テーマ・内容 等		
1	わが国の精神保健医療福祉の歴史と動向①		
2	わが国の精神保健医療福祉の歴史と動向②		
3	諸外国の精神保健医療制度の変遷		
4	精神障害者に対する基本的な考え方と必要な知識①精神保健福祉士における活動の歴史		
5	精神障害者に対する基本的な考え方と必要な知識②精神障害者支援の理念		
6	精神障害者に対する基本的な考え方と必要な知識③精神保健福祉領域における支援対象		
7	精神障害者に対する基本的な考え方と必要な知識④精神障害者の人権		
8	相談援助の過程および対象者との援助関係①ケース発見、受理面接		
9	相談援助の過程および対象者との援助関係②課題分析		
10	相談援助の過程および対象者との援助関係③支援計画		
11	相談援助の過程および対象者との援助関係④支援の実施と経過の観察		
12	相談援助の過程および対象者との援助関係⑤効果測定と支援の評価、終結		
13	相談援助活動のための面接技術①		
14	相談援助活動のための面接技術②		
15	相談援助活動の展開①相談援助活動の内容と方法		
16	相談援助活動の展開②個別支援の実際と事例分析		
17	相談援助活動の展開③集団を活用した支援の実際と事例分析		
18	相談援助活動の展開④事例分析		
19	家族支援①精神障害者と家族の関係		
20	家族支援②家族支援の方法		
21	家族支援③家族支援の視点		
22	家族支援④事例検討		
23	地域移行の対象および支援体制①地域移行支援の対象、体制		
24	地域移行の対象および支援体制②地域移行における精神保健福祉士の役割		
25	地域移行の対象および支援体制③地域移行支援・地域定着支援の取り組み		
26	地域移行の対象および支援体制④地域移行にかかわる機関と組織、事例検討		

27	地域を基盤にした相談援助①精神障害者を取り巻く社会的状況
28	地域を基盤にした相談援助②地域相談援助の主体、対象
29	地域を基盤にした相談援助③地域相談援助の体制
30	地域を基盤にした相談援助④事例検討
31	精神科リハビリテーションの概念
32	精神科リハビリテーションの理念、意義と基本原則
33	精神科リハビリテーションの構成と展開
34	精神科リハビリテーションのプロセス
35	精神科リハビリテーションのアプローチの方法
36	ライフサイクルと精神科リハビリテーション
37	医療機関における精神科リハビリテーションの展開①精神科専門療法 作業療法 レクリエーション療法
38	医療機関における精神科リハビリテーションの展開②集団精神療法 デイケア・ナイトケア
39	医療機関における精神科リハビリテーションの展開③行動療法 社会生活技能訓練
40	医療機関における精神科リハビリテーションの展開④心理教育 家族教育プログラム
41	医療機関における精神科リハビリテーションの展開⑤医療機関のアウトリーチ
42	チーム医療の概要
43	医療機関における多職種との協働・連携
44	精神障害者支援の実践モデル①
45	精神障害者支援の実践モデル②
46	地域を基盤にしたリハビリテーション①地域ネットワーク
47	地域を基盤にしたリハビリテーション②アウトリーチ
48	地域を基盤にしたリハビリテーション③地域生活支援事業と訪問援助
49	地域を基盤にしたリハビリテーション④セルフヘルプグループ、家族会、ボランティア
50	ケアマネジメントの概要
51	精神障害者のケアマネジメント①原則および意義と方法
52	精神障害者のケアマネジメント②プロセス
53	精神障害者のケアマネジメント③チームケアとケースカンファレンス
54	精神障害者のケアマネジメント④社会資源の活用
55	精神障害者のケアマネジメント⑤具体的事例検討
56	地域を基盤にした支援 ネットワーキングとコーディネーション
57	地域を基盤にした支援 事例検討
58	地域生活支援① 包括的な支援
59	地域生活支援②ソーシャルワークの様々なアプローチ
60	スーパービジョンとコンサルテーション
[使用テキスト・参考文献]	
新・精神保健福祉士養成講座4、5 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ(第2版) 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ(第2版) (中央法規出版)	
[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)	
定期試験、レポート、その他	

授 業 概 要			
授業のタイトル(科目名) 精神保健福祉に関する 制度とサービス	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	増 谷 千 晶	無
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
30回	60時間	通年 (前期 ・ 後期)	必 修
[授業の目的・ねらい] 近年、精神保健福祉に関する法律は、めまぐるしく変化をしている。専門職として、精神障害者の権利擁護や福祉の向上を考えていく上で、関係する法律や制度の知識は不可欠となるため、各制度の成り立ちや歴史を理解し考えていく。 [授業全体の内容の概要] 精神障害者の支援に関連する制度や福祉サービスについての知識と支援内容を理解する。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] 精神保健福祉に関する制度を理解し、具体的な支援を多角的に考えられるようにする。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数	テーマ・内容 等		
1	精神保健福祉の歴史 1		
2	精神保健福祉の歴史 2		
3	精神障害者に関する法律の歴史		
4	精神保健福祉法の構成		
5	精神保健福祉法の権利擁護		
6	精神保健福祉法の具体的内容 1		
7	精神保健福祉法の具体的内容 2		
8	精神保健福祉法の改正 1		
9	精神保健福祉法の改正 2		
10	医療観察法 1		
11	医療観察法 2		
12	医療観察法の現状		
13	相談援助に関わる職種 1		
14	相談援助に関わる職種 2		
15	前期のまとめ・補足		
16	少年法		
17	更生保護について		
18	更生保護の関する組織		
19	社会調査について		
20	量的調査とは		
21	質的調査とは		
22	質的調査における分析方法		
23	質的調査の分析の実際		
24	精神保健福祉に関するその他の法律 1		
25	精神保健福祉に関するその他の法律 2		
26	精神障害者の地域生活の推進等		
27	精神障害者の現状・統計から見えること		
28	精神障害者の現状とその課題		
29	後期のまとめ・補足		
30	国家試験対策		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)	
新・精神保健福祉士養成講座6 精神保健福祉に関する制度とサービス 第6版 (中央法規出版)		定期試験	

授 業 概 要			
授業のタイトル(科目名)		授業の種類	授業担当者
精神障害者の生活支援システム		講義	仲 野 文 伸
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30時間	前 期	必 修
[授業の目的・ねらい] 社会の変化による精神保健福祉に関するニーズの高まりに伴い精神保健福祉士の活動分野が広がっていると同時に、より高い専門性が求められてきています。 精神保健福祉法の改正では、精神保健福祉士の業務に地域相談支援の利用に関する相談その他、が追加され、障害者自立支援法の改正では、地域移行支援・地域定着支援が個別給付化され、地域移行の仕組みが強化されました。 長期入院からの地域移行を一層進めていくこと、精神障害者の自立と社会参加を進めていくことが背景にあります。 生活支援システムとは、これらを進めていくために精神保健福祉士としての実践力に必要な知識の獲得が必要とされます。 [授業全体の内容の概要] 精神障害者の生活の実態を知り、支援方法を学ぶ。特に精神障害者の地域生活を支える居住支援、就労支援を中心に生活支援システムについて理解する。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] 精神障害者の概念(精神障害定義)を理解し、精神障害者の社会復帰と生活支援を地域で行うための就労支援や居住システム、相談援助活動等を学習する。 実際にどのような支援が行われているかが理解できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数	テーマ・内容 等		
1	精神障害者の生活支援の理念と概念		
2	精神障害者の概念・特性		
3	精神障害者の生活実態と家族の状況		
4	地域生活における精神障害者の人権		
5	居住支援の歴史的展開		
6	居住支援の概要と専門職の役割		
7	居住支援の実際		
8	就労支援制度の概要と歴史的展開		
9	就労支援にかかわる専門職の役割		
10	就労支援の実際		
11	就労支援の近年の動向		
12	経済的支援の実際		
13	市町村およびその他の行政機関の機能と役割		
14	ソーシャルサポートネットワーク		
15	精神障害者の地域生活支援システムと精神障害者に対する相談援助		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)	
新・精神保健福祉士養成講座7 精神障害者の生活支援システム (中央法規出版)		授業参加、取り組み、定期試験などでの総合評価	

授 業 概 要				
授業のタイトル(科目名) 精神保健福祉援助演習(基礎)		授業の種類	授業担当者	実務経験の有無 有
		演習	森明美・増谷千晶・野浪実穂	
授業の回数	時間数	配当学年・時期		必修・選択
15回	30時間	前 期		必 修
[授業の目的・ねらい] 精神保健福祉士に求められる相談援助に関わる基礎的な知識と技術について、実技を通して実践的に習得する。				
[授業全体の内容の概要] 自己覚知を含めて、面接に必要とされるコミュニケーション技術、記録技術、地域調査、アセスメント等について実技を通して学習する。				
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 精神保健福祉援助実習時の面接において、情報収集、アセスメントをし、記録にまとめることができる。あわせて地域福祉の基盤整備と開発にかかわる事柄についても理解している。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				
コマ数	テーマ・内容 等			
1	演習の意義と方法			
2	自己覚知と他者理解①			
3	自己覚知と他者理解②			
4	専門職の価値と倫理			
5	基本的なコミュニケーション技術の習得①			
6	基本的なコミュニケーション技術の習得②			
7	情報の収集・整理・伝達の技術の習得①			
8	情報の収集・整理・伝達の技術の習得②			
9	課題の発見・分析・解決の技術について			
10	面接技術の習得①講義			
11	面接技術の習得②ロールプレイング			
12	面接技術の習得③ロールプレイング、振り返り			
13	地域福祉の基盤整備に関わる技術①社会資源についての情報収集			
14	地域福祉の基盤整備に関わる技術②地域アセスメント			
15	記録の技術			
[使用テキスト・参考文献] 特に指定しない。		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) レポート、演習の活動内容		

授 業 概 要			
授業のタイトル(科目名)		授業の種類	授業担当者
精神保健福祉援助演習(専門)		演習	森明美・増谷千晶・野浪実穂
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
30回	60時間	後 期	必 修
[授業の目的・ねらい] 精神保健福祉士に求められる相談援助に関わる知識と技術について、実践的に習得する。 [授業全体の内容の概要] 支援課題別、対象者別の相談援助事例をとりあげ、具体的な援助場面を想定したグループワーク、ディスカッション、レポート作成などを通しての演習 [授業終了時の達成課題(到達目標)] 精神保健福祉援助に関する知識、技術を習得し、それを概念化し理論化し体系立てていくことができる			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数	テーマ・内容 等		
1	事例を活用した演習の実践に向けて①		
2	事例を活用した演習の実践に向けて②		
3	相談援助過程における実践技術①インテーク、契約		
4	相談援助過程における実践技術②アセスメント、プランニング		
5	相談援助過程における実践技術③支援の実施・振り返り		
6	相談援助過程における実践技術④支援評価・終結とアフターケア		
7	前期実習体験をふまえた個別指導①		
8	前期実習体験をふまえた個別指導②		
9	前期実習をふまえた集団指導①		
10	前期実習をふまえた集団指導②		
11	課題別事例展開の実際①		
12	課題別事例展開の実際②		
13	課題別事例展開の実際③		
14	課題別事例展開の実際④		
15	課題別事例展開の実際⑤		
16	課題別事例展開の実際⑥		
17	課題別事例展開の実際⑦		
18	課題別事例展開の実際⑧		
19	地域の基盤整備と地域生活支援活動の事例展開①アウトリーチ		
20	地域の基盤整備と地域生活支援活動の事例展開②ケアマネジメント		
21	地域の基盤整備と地域生活支援活動の事例展開③ケアマネジメント		
22	地域の基盤整備と地域生活支援活動の事例展開④チームアプローチ		
23	地域の基盤整備と地域生活支援活動の事例展開⑤ネットワーキング		
24	地域の基盤整備と地域生活支援活動の事例展開⑥社会資源の活用・調整・開発		
25	地域の基盤整備と地域生活支援活動の事例展開⑦サービス評価		
26	地域の基盤整備と地域生活支援活動の事例展開⑧地域福祉計画		
27	後期実習をふまえた集団指導①		
28	後期実習をふまえた集団指導②		
29	後期実習をふまえた集団指導①		
30	後期実習をふまえた集団指導②		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)	
特に指定しない。		レポート、演習中の活動内容	

授 業 概 要			
授業のタイトル(科目名)		授業の種類	授業担当者
精神保健福祉援助実習指導		演習	森明美・野浪実穂 増谷千晶・仲野文伸
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
45回	90時間	通年(前期・後期)	必修
[授業の目的・ねらい] 精神保健福祉援助実習の意義について理解し、精神障害者のおかれている現状、その生活の実態や生活上の困難について理解を深める。 [授業全体の内容の概要] 個別指導及び集団指導を通して援助に必要な知識技術を具体、実践的に習得する。精神保健福祉士として求められる資質、倫理観、課題把握能力などを養う。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] 専門的知識及び技術を概念化、理論化することによって体系立てて考えていく能力を養う。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数	テーマ・内容 等		
1	精神保健福祉援助実習の概要		
2	実習全体の流れと学習内容		
3	精神保健医療福祉の現状の理解①		
4	精神保健医療福祉の現状の理解②		
5	実習を行う施設・機関・事業所等に関する基本的理解①		
6	実習を行う施設・機関・事業所等に関する基本的理解②		
7	実習を行う施設・機関・事業所等に関する基本的理解③		
8	実習を行う施設・機関・事業所等に関する基本的理解④		
9	医療機関および障害者福祉サービス事業所での現場体験学習および見学実習①		
10	医療機関および障害者福祉サービス事業所での現場体験学習および見学実習②		
11	医療機関および障害者福祉サービス事業所での現場体験学習および見学実習③		
12	医療機関および障害者福祉サービス事業所での現場体験学習および見学実習④		
13	実習生の行動指針①		
14	実習生の行動指針②		
15	実習配属先の理解①		
16	実習配属先の理解②		
17	前期実習計画の作成		
18	前期実習計画についての個別指導①		
19	前期実習計画についての個別指導②		
20	前期実習計画についての個別指導③		

21	精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解①
22	精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解②
23	実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解①
24	実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解②
25	記録法についての理解①
26	記録法についての理解②
27	実習日誌への記録内容、記録方法に関する理解①
28	実習日誌への記録内容、記録方法に関する理解②個別指導
29	実習生としての心構え
30	事前訪問について
31	前期実習後の全体指導
32	前期実習後の課題の整理のための個別指導①
33	前期実習後の課題の整理のための個別指導②
34	前期実習報告書の作成
35	前期における実習報告会＜全体を通しての総括＞①
36	前期における実習報告会＜全体を通しての総括＞②
37	後期実習計画の作成
38	後期実習計画についての個別指導①
39	後期実習計画についての個別指導②
40	後期実習計画についての個別指導③
41	後期実習後の課題の整理のための個別指導①
42	後期実習後の課題の整理のための個別指導②
43	後期実習報告書の作成
44	後期における実習報告会＜全体を通しての総括＞①
45	後期における実習報告会＜全体を通しての総括＞②
[使用テキスト・参考文献] 精神保健福祉援助実習のてびき 実習生必携 ソーシャルワーク実習ノート第2版 (みらい) [単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) レポート、実習指導中の活動内容	

授 業 概 要				
授業のタイトル(科目名)		授業の種類		授業担当者
精神保健福祉援助実習		施設実習		
授業の回数	時間数	配当学年・時期		必修・選択
28日間	210時間	後期		必修
[授業の目的・ねらい] 施設実習を通して、精神保健福祉士に求められる知識や技術を実践的に理解、あるいは体得する。				
[授業全体の内容の概要] 障害者等に対する相談援助を実践的に体得し、それによって、精神障害者のおかれている現状や問題点などを把握する。精神保健福祉士として求められる、資質や倫理等を理解する。地域生活支援方法や関係分野との連携の在り方を理解する。				
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 精神保健福祉の現状を理解し、そのうえで精神保健福祉士の視点、よって立つ理念を踏まえ、援助を考えていけるようにする。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				
日数	テーマ・内容 等			
1	医療機関実習①医療機関の機能や、そこでの精神保健福祉士の業務を把握する。			
2	医療機関実習②病棟実習	各病棟の機能を理解する。 各病棟における患者様の病状の違いを理解し、援助をしていく上での注意点等を考えていく。 入院時、退院時における精神保健福祉士の役割を理解する。 医療機関における他職種の役割を知り、チーム医療の重要性を理解する。その上で、精神保健福祉士としての専門性とは何かを考える。 患者様の人権を尊重するということはどういうことなのか、理解を深める。		
3	医療機関実習③病棟実習			
4	医療機関実習④病棟実習			
5	医療機関実習⑤病棟実習			
6	医療機関実習⑥病棟実習			
7	医療機関実習⑦病棟実習			
8	医療機関実習⑧デイケア実習	グループワークについて理解を深め、その中で の精神保健福祉士の役割を考える。 グループ運営上での、視点、注意点等を理解する。 精神科リハビリテーションの技法や進め方を理解する。		
9	医療機関実習⑨デイケア実習			
10	医療機関実習⑩デイケア実習			
11	医療機関実習⑪訪問看護	地域で暮らす精神障害者の現状を把握し、必要な支援、 制度等について理解を深める。 他職種との連携、チームでの支援のあり方を考える。		
12	医療機関実習⑫訪問看護			
13	医療機関実習⑬実習の振り返り。			
14	医療機関実習⑭実習のまとめ。			
15	福祉サービス事業所実習①施設の機能や、そこでの精神保健福祉士の業務を把握する。			
16	福祉サービス事業所実習②			
17	福祉サービス事業所実習③	それぞれの福祉サービス事業所の機能と役割を知る。 地域の特徴を把握し、地域で生活をしていくとはどういうこと なのかを考える。 地域生活を支援していく上での、精神福祉士としての視 点、専門性とは何かを考える。 地域生活支援のための他機関との連携の在り方を知る。 精神障害についての啓発活動の必要性や具体的な方策 を考える。 ボランティアの意義と連携について、具体的な活動等の理 解を深める。		
18	福祉サービス事業所実習④			
19	福祉サービス事業所実習⑤			
20	福祉サービス事業所実習⑥			
21	福祉サービス事業所実習⑦			

22	福祉サービス事業所実習⑧	
23	福祉サービス事業所実習⑨ケースワーク	実践的な面接技法、面接技術を体得する。 記録の取り方、まとめ方等を知る。 個人情報の扱い方、精神保健福祉士としての 守秘義務について理解を深め、その重 要性を理解する。
24	福祉サービス事業所実習⑩ケースワーク	
25	福祉サービス事業所実習⑪ケースワーク	
26	福祉サービス事業所実習⑫ケースカンファレンス	
27	福祉サービス事業所実習⑬実習の振り返り。	
28	福祉サービス事業所実習⑭実習のまとめ。	
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]
「精神保健の課題と支援」（中央法規出版）		（試験やレポートの評価基準など）
		定期試験